

2008年度
学芸員資格課程
夏季集中講座

講 義 要 項

~ 抜 粹 ~

早稲田大学 文学部

| | | | |
|----------|--|-----|---|
| | 博物館概論 (学芸員夏季)B | | |
| 担当教員名 | 大橋 一章 | | |
| 学期・曜日・時限 | 夏季集中 | 単位数 | 2 |
| 講義概要 | <p>わが国で文化財という概念が意識されるようになるのは明治時代、つまり近代のことである。仏教寺院に伝わる古い文化財、たとえば仏像、仏画、経典、建築等を破壊するという廃仏毀釈は明治初年からおよそ10年間奈良から全国へと広がっていった。こうした文化財不運の廃仏毀釈のつぎにくるのがその反動としての文化財の保護である。保護の前にすべきことはまず如何なる文化財が存在するのか、その調査をしなければならない。そこで貴重な文化財の保護が始まり、欧米のミュージアムがわが国でも設立されることになった。国家の近代化を目指していた明治のはじめ、わが国にも貴重な文化財に目を向ける人がいたのである。現在のわが国の博物館、美術館は明治初年の文化財の受難の延長線上に位置するのである。この授業では人間が保護しなければならない文化財とは如何なるものか、文化財と人間の関係、文化財と博物館の関係について述べていきたい。</p> | | |
| シラバス | <p>この授業は講義形式ですすめるが、はじめに曾津八一記念博物館の所蔵の文化財を見学し、文化財の種類について理解を深めたい。</p> | | |
| 評価方法 | 授業への出席と試験により総合的に評価する。 | | |
| 備考 | <p>【授業日程】 2008年7月28日(月)2-4時限 7月29日(火)-31日(木)、8月4日(月)1-3時限</p> | | |

| | | | |
|----------|---|-----|---|
| 科目名 | 博物館経営・情報論 (学芸員夏季)B | | |
| 担当教員名 | 篠 雅廣 | | |
| 学期・曜日・時限 | 夏季集中 | 単位数 | 2 |
| 講義概要 | <p>社会の構造的変化と厳しい財政状況のなかで、日本のミュージアムは、現下の「社会的要請」を正しく理解し、本来の機能を強化しながら、「箱」として存在することの「意義と効果」を具体的に示さなければ、生き残れない危機的事態にあります。「お荷物である」、「君たちはもういらぬ」とさえ公言される時代なのです。</p> <p>しかしながら見方を変えて、努力すれば、社会や市民とつながってきたこれまでの回路を見直し、ミュージアムの新しいありかたを提案できる、絶好の機会が到来しているのかもしれませんが。実際のところ、現場では学芸員をはじめとして、ミュージアムに関わるさまざまな職種の、志の高いスタッフが求められているのです。</p> <p>この講義では、「ミュージアムは誰のものか」という視点で、博物館法改正の論議、また独立行政法人・地方独立行政法人・指定管理者制度といった経営形態の最新の動向を具体的な事例で紹介しながら、実践的なグループ・ディスカッションも交えて、日本のミュージアムの現状と課題を考察します。</p> | | |
| シラバス | <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 講義を進める立場 2. ミュージアムは変貌する、させられる？ 改正される博物館法 3. ミュージアムは誰のものか 設置者・従事者・利用者、それぞれの立場から 4. ミュージアムの現状 いくつかの事例 5. ミュージアムは文化戦略、文化政策の執行機関である 6. ミュージアム・マーケティングの思想 戦略をもつ意義 7. 独立行政法人の試練と地方独立行政法人への試み 8. 指定管理者制度の功罪 ビジネス・チャンス？ 自壊？ 再生？ 9. 「公募に勝ち残るつらさ」 ある事例 10. リスク・マネジメントの思想 阪神大震災の経験を生かす 11. これからのミュージアムが求める人材 12. 補足: 私的ミュージアム論 | | |
| 教科書 | 講義中に適宜指示、配布します。 | | |
| 参考文献 | 講義中、適宜紹介します。 | | |
| 評価方法 | 出席状況、課題提出の総合評価 | | |
| 備考 | <p>【授業日程】</p> <p>2008年8月18日(月)-8月22日(金)1-3時限</p> | | |

| | | | |
|----------|--|-----|---|
| 科目名 | 博物館資料論(学芸員夏季) B | | |
| 担当教員名 | 岡部 央 | | |
| 学期・曜日・時限 | 夏季集中 | 単位数 | 2 |
| 講義概要 | <p>博物館活動の基幹となる博物館資料について、(1)資料の収集、(2)整理と管理、(3)保存、(4)展示活用等に関する理論や方法に関する知識と技術の習得を図る。</p> <p>博物館施設の性格と活動目的にあった資料を如何に収蔵し、どのように整理して保存していくのか。そして、それらの資料をとおして何を伝えていくのか。博物館資料を活かすことができるかどうかは、ひとえに学芸員の技量と惜しめない取り組み如何にかかっているとえよう。</p> <p>学芸員が博物館資料に対峙するとき、2つの視点が必要である。一つは資料的価値を見出すことであり、片や資料保存のための材質と構造の見極めである。さまざまな博物館資料に対応するためには、各自の専門領域にとどまらず、研究対象を広げていくことが大切だ。資料の取扱いや保存を的確に行うためには、その資料がどんな材質でどのような構造をし、どんな形状をしているのか、さらには保存状況はどうかについて十分に感得できなければならない。</p> <p>授業はこれらを踏まえ、より具体的な内容で講義・演習をすすめていく。</p> | | |
| シラバス | <p>1) 基礎: 資料に対する二つの視点. 一枚の資料から「延宝九年、上野国貫前神社の円空」. 資料の取扱い-形状と品質構造と保存状況を知る. 知らないと困る法令事務</p> <p>2) 収集: 資料の価値</p> <p>3) 整理: この像は何? 資料に何を見いだすか. 写真でたぐる昭和の記憶-記憶が弾ける</p> <p>4) 保存: 良好な保存環境・展示環境. よみがえる彩り-瑞巖寺障壁画の復元模写. 地域の人々とともに-追母薬師堂の仏像保存整備. 天平の造形-乾漆技法-</p> <p>5) 精査: 塔の初層に仏伝ジオラマ-山王麁寺の塑像群</p> <p>6) 展示: 展示-何をどう伝えるか! 観音山古墳の展示. 広報プロモーション</p> | | |
| 教科書 | 授業時に資料を配付する。 | | |
| 参考文献 | 授業時に紹介する。 | | |
| 評価方法 | 出席状況、授業活動、課題提出の総合評価 | | |
| 備考 | <p>【授業日程】</p> <p>2008年8月25日(月)-8月29日(金)1-3時限</p> | | |

| | | | |
|----------|--|-----|---|
| 科目名 | 博物館実習 (学芸員夏季)A・B | | |
| 担当教員名 | 宮瀧 交二 他 / 杉本 欣久 / 村松 哲文 | | |
| 学期・曜日・時限 | 夏季集中 | 単位数 | 3 |
| 講義概要 | 博物館学芸員の日常の業務は、資料の収集、保存・管理、調査・研究、展示等を中心として多岐にわたる。こうした業務の基礎となっているのが、I.P.M.(総合的有害生物管理)をはじめとする資料の保存・管理に関する正しい知識、そして様々な資料に応じた正しい取り扱いの知識・技術に他ならない。本講義では学芸員が備えるべき基本的な知識と技術に関して丁寧に講義するとともに、十分な実習によって理解を深めるものとする。 | | |
| シラバス | <p>主な授業内容(順不同)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の展示環境について ・資料の取り扱い(仏像・美術工芸品等の取り扱い、美術梱包) ・資料展示の実際(企画から実施まで) ・資料の記録化(実測、拓本採取、写真撮影等) | | |
| 参考文献 | 講義の中で適宜紹介する | | |
| 教科書 | 『博物館実習提要』(早稲田大学會津八一記念博物館編) | | |
| 評価方法 | 出席状況及び受講姿勢を評価の基本とし、総合的に判断する | | |
| 備考 | <p>【授業日程】</p> <p>2008年8月18日(月)-9月5日(金)4-6時限 (但し土日は除く)</p> <p>初回授業は全クラス共通ガイダンスを行なう。</p> <p>科目登録時に実習費 5,000 円を徴収する。</p> | | |

| | | | |
|----------|---|-----|---|
| 科目名 | 博物館実習 (学芸員夏季)C・D | | |
| 副題 | 学芸員の仕事 | | |
| 担当教員名 | 内田 啓一 / 鈴木 泉 | | |
| 学期・曜日・時限 | 夏季集中 | 単位数 | 3 |
| 学期・曜日・時限 | 夏季 無その他 | | |
| 講義概要 | 博物館・美術館学芸員の主な仕事には展覧会と資料の調査・収集保管がある。この二つはともに資料の適切な取り扱いに基づきはじめて成し遂げられるものである。この実習では実際の資料やレプリカなどの取り扱いを中心に資料の特徴について体験し、その技術を習得するものとする。また、展覧会については企画や予算など実際面のことを講義し、実習生のプレゼンテーションを通じて学芸員の仕事について総合的な理解を深めるものとする。 | | |
| シラバス | 1 絵画の取り扱い(軸装・卷子装・額装等) 6 展覧会の企画 2 彫刻の取り扱い(仏像等) 7 展覧会の予算 3 工芸品の取り扱い(陶磁器・金工品・漆工等) 8 展示作業 4 資料の調査と調書作成 9 ディスプレイ 5 写真撮影と拓本 10 まとめ | | |
| 参考文献 | 『博物館実習提要』(早稲田大学會津八一記念博物館編) | | |
| 評価方法 | 出席点・平常点(実習態度・理解度・積極性等) | | |
| 備考 | 【授業日程】 2008年8月18日(月)-9月5日(金)4-6時限 (但し土日は除く) 初回授業は全クラス共通ガイダンスを行なう。 科目登録時に実習費 5,000 円を徴収する。 | | |

| | | | |
|----------|--|-----|---|
| 科目名 | 博物館実習 (学芸員夏季)E | | |
| 担当教員名 | 内藤 勝雄 / 杉山 正司 | | |
| 学期・曜日・時限 | 夏季集中 | 単位数 | 3 |
| 講義概要 | 博物館・美術館の学芸員活動は、資料の収集、保存・管理、調査・研究、展示活動、教育普及活動など多岐にわたる。これら学芸員活動は、普段は一般の人たちの目に触れない部分が多く、講義などの座学では学べない実践的業務である。特に資料の取扱は、将来にわたって文化財として伝えていくため、資料の性質などを正しく熟知するとともに経験を必要とする。本講座では、資料取扱の正確な知識と技術を実物資料を扱いながら学び、さらに人文系博物館ならびに美術館の学芸員として必要な実務を実習する。 | | |
| シラバス | <ol style="list-style-type: none"> 1 美術工芸品の取扱い(掛幅・卷子・刀剣・仏像など) 2 二次資料の作成(複製など) 3 調査(調書・拓本・写真など) 4 梱包(仏像・考古資料など) 5 展示(企画・展示など) 6 保存(資料管理・環境など) 7 教育普及(ワークショップなど) | | |
| 参考文献 | 『博物館実習提要』(早稲田大学會津八一記念博物館編) | | |
| 評価方法 | 実習なので、出席状況や受講態度を評価の基準とし、さらに提出物その他によって総合的に評価する。 | | |
| 備考 | <p>【授業日程】</p> <p>2008年7月28日(月) 2-6時限</p> <p>7月29日(火)-31日(木) 1-6時限</p> <p>8月4日(月) 2-6時限</p> <p>8月5日(火)-6日(水) 1-6時限</p> <p>8月7日(木) 1-5時限</p> <p>科目登録時に実習費 5,000 円を徴収する。</p> | | |

| | | | |
|----------|--|-----|---|
| 科目名 | 博物館実習 (学芸員夏季)F・G | | |
| 副題 | 学芸員に必要な実務の習得 | | |
| 担当教員名 | 山田 磯夫 / 内藤 勝雄 | | |
| 学期・曜日・時限 | 夏季集中 | 単位数 | 3 |
| 学期・曜日・時限 | 夏季 無その他 | | |
| 講義概要 | <p>学芸員の日常の活動内容は多岐にわたり、調査・研究・展示・保存・管理などさまざまである。これらはいずれも作品及び資料の性格にあわせて実施されるので、取扱う技術と正確な保存管理上の知識を身につけておかなければならない。そこで、下記の実習テーマに沿って人文系博物館ならびに美術館の学芸員として必要な実務を体験しながら、実習をすすめる。</p> | | |
| シラバス | <ol style="list-style-type: none"> 1 美術工芸品の取扱い方(掛幅・卷子・展風・陶磁器・刀剣・金工品・仏像など) 2 二次資料の作成(複製など) 3 展示 4 調査(拓本・写真など) 5 梱包(掛幅・卷子・彫刻など) 6 展示・保存環境(展示施設・温度・湿度・照明など) | | |
| 参考文献 | 『博物館実習提要』(早稲田大学會津八一記念博物館編) | | |
| 評価方法 | 実習なので出席状況や受講態度を評価の基本とし、さらに提出物などによって総合的に評価する。 | | |
| 備考 | <p>【授業日程】 2008年8月18日(月)-9月5日(金)4-6時限 (但し土日は除く) ガイダンスの教室は、当日の掲示で確認すること。 科目登録時に実習費 5,000 円を徴収する。</p> | | |

| | | | |
|----------|---|-----|---|
| 科目名 | 視聴覚教育メディア論 (学芸員夏季)B | | |
| 副題 | デジタル時代の視聴覚教育メディア | | |
| 担当教員名 | 濱崎 好治 | | |
| 学期・曜日・時限 | 夏季集中 | 単位数 | 1 |
| 講義概要 | <p>博物館において視聴覚教育メディアを活用した事例を紹介しながら、学芸員としての仕事に役立てる実務的な事柄を講義していく。視聴覚的なメディアとは、複製技術の発達によって生みだされたもので、印刷技術から写真・レコード・映画・テレビ・ビデオをはじめ、インターネット等の電子的な映像及び音声による記録再生媒体であり、各々のメディアとしての特性を時系列的に理解しなければならない。なぜならば、メディアを取り巻く技術革新によってハードウェアの性能が変化し続けからである。</p> <p>この集中講義では、ここ数年来の博物館の現状を視聴覚メディアの活用例から考察し、デジタル技術によって、今後の博物館活動に期待されることを示し、学芸員としてメディアに関わる判断力を身につける。そのための簡単な演習も行ってみたい。</p> | | |
| シラバス | <p>博物館のケーススタディー</p> <p>どのような視聴覚教育メディアが導入され、失敗したか。また、その改善計画と新たな導入計画。</p> <p>視聴覚教育メディアの特性と博物館機能</p> <p>収集・保存・修復・展示・教育普及・広報活動</p> <p>効果的な印刷物・ホームページの分析。</p> <p>視聴覚教育メディアの実践</p> <p>撮影・取材の計画。コンテンツ制作のプロセス。</p> <p>媒体変換とメディア用語の基礎知識。</p> <p>近未来の博物館</p> <p>デジタル技術によって変わるもの、変わらないもの。</p> <p>デジタルアーカイブとは何か？</p> | | |
| 教科書 | 指定なし。配布資料あり。ビデオを視聴。 | | |
| 参考文献 | 授業時間に参考図書を紹介。 | | |
| 評価方法 | レポート。 | | |
| 関連 URL | 授業で紹介。 | | |
| 備考 | <p>【授業日程】</p> <p>2008年8月5日(火) 1-3時限</p> <p>8月6日(水)-8月7日(木)1-2時限</p> | | |

| | | | |
|----------|---|-----|---|
| 科目名 | 教育学概論 (学芸員夏季)B | | |
| 副題 | -新たな教育創造に向けて- | | |
| 担当教員名 | 山西 優二 | | |
| 学期・曜日・時限 | 夏季集中 | 単位数 | 1 |
| 講義概要 | <p>今日、教育改革論議は盛んである。それは、子どもにみる、無気力・無関心、いじめ、不登校、非行・犯罪、学力低下といった問題状況、家庭や地域にみる関係性の希薄化と教育力の低下といった問題状況、さらには貧困、環境破壊、紛争・対立といった地球レベルの問題状況が顕在化するなかで、従来の教育のあり様そのものが問われ、他方では新たな教育による問題状況への対応が期待されているためということができる。</p> <p>そんな中この授業では、教育の定義やその特質を改めて確認した上で、国内外の実践事例に目を向け、それらに学ぶことを通して、上記のような問題状況に対応できる教育の創造に向けての視点や課題について検討することを基本目的としている。また最後には、そのような教育をつくり出す上での博物館の役割についても考察してみることにしたい。国内外の実践事例としては、「インドのスラムの学校での実践」「日本の学校での国際理解教育実践」「国内外の博物館での実践」「エコミュージアムの試み」などをとり上げる予定である。</p> | | |
| シラバス | <p>7回の授業計画は下記の通りであるが、詳細は最初の授業時に改めて確認する。</p> <p>第1回 オリエンテーション、教育とは-定義とその特質-</p> <p>第2回 実践に学ぶ1.-目的:生きることと学ぶこと-</p> <p>第3回 実践に学ぶ2.-目的:ホリスティックなアプローチ-</p> <p>第4回 実践に学ぶ3.-学校の試み-</p> <p>第5回 実践に学ぶ4.-博物館の試み-</p> <p>第6回 実践に学ぶ5.-地域の試み-</p> <p>第7回 全体の振り返り-新たな教育創造と博物館の役割-</p> | | |
| 教科書 | 特定のテキストは使用しない。 | | |
| 参考文献 | 授業時に適宜紹介する。 | | |
| 評価方法 | 授業参加、レポートによる評価 | | |
| 備考 | <p>【授業日程】</p> <p>7月29日(火)4-6時限</p> <p>7月30日(水)-31日(木)4-5時限</p> | | |

| | | | |
|----------|---|-----|---|
| 科目名 | 生涯学習概論 (学芸員夏季)B | | |
| 担当教員名 | 古市 将樹 | | |
| 学期・曜日・時限 | 夏季集中 | 単位数 | 1 |
| 講義概要 | <p>生涯学習という言葉が使われるようになってから久しいが、その理解が進んでいるかどうかは疑わしい。もともとユネスコで提唱された生涯学習の考えにもとづく、行政的な生涯学習構想は、日本の教育の組み直しを図るものであったが、それは制度的な改変のみを意味するのではない。生涯学習の考え方には、その目的、内容、方法他、学校教育とは異なる教育や学習のあり方が示される。つまり生涯学習は学校教育中心的教育観の転換を迫るものであり得るはずであった。ところが、そうした理解が進んでいないのは、未だに学校教育中心的教育観が根強く残り、さらに、実際に社会的に機能しているからでもある。</p> <p>この授業では、教育 / 学習の概念形成に注目し、まず、日本における 教育 の誕生から現在のそれが形成されてきた過程を、明治期から 1950 年代までの歴史にそって見ていくことで、現在の教育観の基盤を確認する。特に、それにあたっては、学校教育とならんで、教育の大きな領域である社会教育についての基礎的な理解をすすめていく。</p> <p>次に、1960 年代以降、生涯学習の考え方が登場した経緯を、特に、ちょうどその時期にさかんに論じられた学校教育批判の各論とともに確認する。もともと生涯学習の考え方には、従来の学校教育への批判の観点が含まれていたが、日本では、そこからの学校教育の大きな見直しが行われてきたとはいえない。それどころか、生涯学習は、学校教育的な教育観から位置づけられているところも見受けられる。と同時に、生涯学習では、学校教育的な教育 / 学習の枠に収まりきらない実践も行われている。そこで、生涯学習を考えるにあたって、実践から振り返っての、その問題点と先駆性の両方を考えていきたい。</p> | | |
| シラバス | <ol style="list-style-type: none"> 1 明治期の日本における学校教育という 教育 による画一化 <ul style="list-style-type: none"> ・発明された 教育 2 社会教育政策の展開とその制度化 <ul style="list-style-type: none"> ・通俗教育から社会教育へ 3 大正期の民間社会教育運動 <ul style="list-style-type: none"> ・自由大学運動と土田杏村の教育論を中心に 4 教育基本法と社会教育法の成立 <ul style="list-style-type: none"> ・戦前と何が変わり何が変わらないか 5 1950 年代までの社会教育と学校教育 <ul style="list-style-type: none"> ・教育行政の進歩と後退 6 生涯学習の提唱 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯教育と生涯学習の提唱に至る経緯 ・生涯学習の理念と学校教育への批判 7 学校教育のとらえ直し <ul style="list-style-type: none"> ・フーコー、イリイチ他、近代学校教育批判各論 8 生涯学習の可能性と今日的課題 <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習構想における学校教育と社会教育の関係 | | |

| | |
|------|---|
| | <p>・公民館における教育 / 学習の実践</p> <p>9 教育 / 学習を通じての「つなげる / つながる」ということ</p> |
| 教科書 | 特に指定しない。必要に応じて適宜プリントを配布する。 |
| 評価方法 | 最後の時間に作成するレポートによる。 |
| 備考 | <p>【授業日程】</p> <p>2008年8月4日(月)-8月5日(火)4-5時限 8月6日(水)3-5時限</p> |

| | | | |
|----------|--|-----|---|
| 科目名 | 文化財保存修復 (学芸員夏季)A | | |
| 副題 | 木造彫刻の保存修復について | | |
| 担当教員名 | 櫻庭 裕介 | | |
| 学期・曜日・時限 | 夏季集中 | 単位数 | 2 |
| 講義概要 | 我が国の有形文化財でとりわけ佛像彫刻は数多く残ってきている。しかし不幸にも制作当初の姿を留めていない佛像も多数にのぼるのも現実である。本授業ではこれら不幸にも自然・人為的に損傷してしまった像を保存することを目的とする。集中講義という限られた時間ではあるが、与えられた時間を有効に使い彫刻文化財のあるべき姿を追求していきたい。尚保存対象となる佛像は現在のところ江戸期に作成された木造彫刻である。参考資料は教場にて逐次連絡する。 | | |
| 備考 | 【授業日程】 2008年9月8日(月)-9月12日(金)1-3時限 | | |

| | | | |
|----------|---|-----|---|
| 科目名 | 文化財保存修復 (学芸員夏季)B・C | | |
| 副題 | 絵画・書跡の表装を中心に | | |
| 担当教員名 | 遠藤 三右衛門 / 庄司 文計 | | |
| 学期・曜日・時限 | 夏季集中 | 単位数 | 2 |
| 講義概要 | 本科目は学芸員の仕事として直接関係のあるものではない。しかし学芸員は常に作品や資料を調査、研究、展示をするのが主な目的となるであろう。その場合「手に触れる」という行為無しには仕事にならないものである。その為には資料、作品等の材質技法等を熟知し、その作品の構成や保存環境を深く認識し、その作品の弱点を見極めなければならない。本授業は文化財修復という立場から、資料、作品の材料、表装の構成、技法等を考察し、学芸員として必要な経験を養成することになる。 | | |
| シラバス | (1)日本における文化財修復 (2)裏打、屏風等の下張など(演習施行) | | |
| 教科書 | プリントを配布する。 | | |
| 評価方法 | 出席日数を評価。 | | |
| 備考 | 【授業日程】 2008年9月8日(月)-9月12日(金)4-6時限 | | |